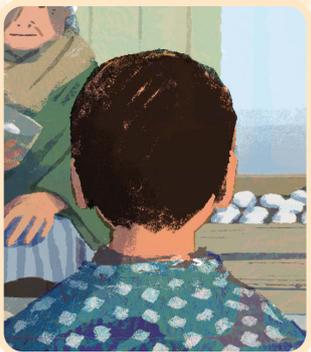


28

足袋の季節

小学校を出た「私」は、父母のもとを離れ、小樽の郵便局で働き始めました。月給から食費などを差し引くと冬になっても足袋を買う余裕もなく、雪の中を素足で通っていました。

ある日、「私」は、上役に言われて大福餅を買いに行きます。餅を売っているおばあさんに「私」が渡したのは十銭玉でしたが、おばあさんは餅を入れた袋を渡しながら「五十銭玉だったね?」とききました。



わたし私

大福餅を売りに来る
おばあさん